

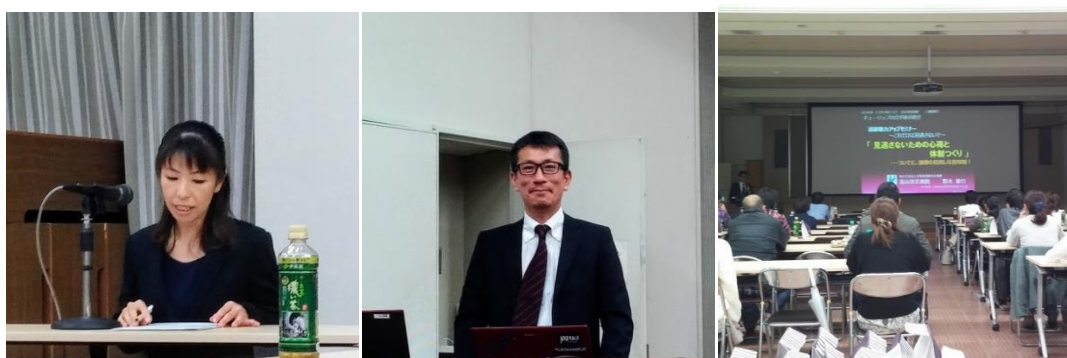
## チューリップの会 H28年度学術研修会 開催報告

H28年11月19日（土）富山市民病院 3階講堂にて読影能力アップセミナーが行われました。多くの参加者で会場が埋まり、読影補助についての関心が高いことがうかがえました。



講義1は富山労災病院の野水先生が『見逃さないための心得と体制作り—ついでに頭部の見逃し注意情報！』と題して読影補助の心得と頭部CTの読影ポイントをご講義くださいました。心得として〈患者の背景を知ること〉、〈画像の違和感を感じ取ること〉、〈その情報を伝えること〉が挙げられました。検査室に入ってきた患者さんの様子や仕草をよく観察する事と発症起点を知る事で、私達はある程度の予測を立てて検査に臨む事が出来ます。そして日頃から正常な画像を多く見て、ちょっとした異常に気が付けるようにトレーニングを行う事も重要です。さらに情報を伝えやすい環境を作ることも大事です。自分が気付いた違和感は間違っているかもしれないと思っても、その情報を診療放射線技師が発信し、医師や看護師と共有することが患者さんへの利益につながります。

頭部CTの読影ポイントについてはできるだけ薄いスライスで撮影し、観察することの重要性をお話くださいました。実際に5mmの画像では確認が困難であったくも膜下出血が2mmの画像ではしっかりと確認できました。



講義2は埼玉県済生会川口病院の富田先生が『明日から使える！異常所見の拾い上げ～X線CT急性腹症編 読影補助をワンランクアップ～』と題して腹部CTの読影ポイントをご講義くださいました。前半では〈肝臓の大きさは15cmを超えると肝腫大〉など具体的な数値を出して正常・異常の判断基準を提示してくださいました。これから読影の勉強を始めようと思っている方にとってもわかりやすい内容で大変参考になったと思います。後半は虫垂炎とイレウスに絞って読影のポイントを学びました。虫垂の位置の同定の仕方、イレウス画像のサインの見方など読影の基礎を中心に丁寧に教えていただきました。そして最後に参加者がスマートフォンを利用しクイズ形式の読影に挑戦しました。先生に教えて頂いた読影のコツをヒントに多くの参加者が楽しく読影を行いました。



研修会の後半は日頃の疑問や今更聞けない質問を事前に募集し、講師の先生方に答えていただく質問コーナーを設けました。先生方は多くの画像を提示しながらポイントを面白く、分かりやすく教えてくださいました。参加者の皆さんの疑問も少しは解消されたのではないかと思います。これから様々な場面で診療放射線技師が読影の補助、助言を求められるようになるかと思います。その時に今回の研修会で学んだことを生かし、患者さんのためにより良い医療を提供できるよう励みましょう。



公立学校共済組合 北陸中央病院  
不破 由佳